「赤木名小学校の八月踊り伝承活動の取組」

１　学校名

奄美市立赤木名小学校

２　学年・人数

１年生～６年生　計107人

３　日時・場所

⑴　練習の日時・場所

令和３年７月９日（金），15日（木）　　赤木名小学校体育館

⑵　発表の日時・場所

令和３年10月３日（日）運動会にて発表予定だったが中止

４　伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事，伝統工芸品について

⑴　名称

赤木名八月踊り（あかきなはちがつおどり）

⑵　由来

八月踊りは，奄美の各シマ（集落）に伝わる男女が唄をかけ合いながらの踊りである。歴史性については，はっきりとした記録はないが，唄の歌詞などから琉球服属時代ではないかと言われている。奄美のノロ（神様）の祭りが集団踊りへ発展した，悪霊払いの火の神祭り，豊年感謝・祈念の祭り，先祖を偲ぶ祭りなど，様々な祭りを由来として現在に伝わっている。

⑶　構成等

八月踊りは，基本的に「新節（アラセツィ）」（旧暦最初のヒノエの日），「芝挿し（シバサシ）」（新節から七日目のミズノエの日），「ドゥンガン」（芝挿しの後のキノエネの日）の３回に分けて踊られていたが，現在では，ほとんどの集落が一回で終わっている。

踊りの構成として男女別に列を作り「ほこらしゃ」を踊りながら，門から家に入り，男女分かれて一つの輪を作る。その後，座り唄（イリウタ）を唄いながら踊りが始まり，赤木名地区では，最後に「浜千鳥（ハマチジュラ）」を踊るようになっている。

５　保存会や地域との連携の具体

赤木名八月踊り保存会の方々が，赤木名っ子タイム（総合的な学習の時間）や家庭教育学級で，子供たちや保護者へ伝承活動を行っている。

今年度，赤木名っ子タイムでは，１年生から６年生まで，学年に応じて指導してもらい，低学年は唄を覚え，中高学年は，唄の歌詞の意味や踊り方まで習った。６年生の中には，「自分たちでツィヅィンを打つまでになる。」といった目標が見られ，家庭教育学級でも，「親子で参加し，様々な世代が楽しく踊る。」といった声が聞かれた。

上の２つの計画を立て，進めていたが，新型コロナウイルス感染症等の状況により，当初の計画通り進められず，赤木名っ子タイムの時間で，７月に「赤木名八月踊り保存会」の皆様にお越し頂き，八月踊りの唄を覚えたり，踊りを踊ったりする活動のみ実施することができた。

子どもたちは，歌詞の一つ一つの意味を考えながら歌ったり，見よう見まね

で踊ったりしたことで，地域の方々との良い交流の機会となり，たくさんの笑顔が見られた。

6　文化財伝承・活用の取組の工夫した点

貴重な文化財である赤木名八月踊りを継承していくためには，若い世代に伝えていくことが大切であると考えている。

一つは，ふるさと教育を学校経営の柱と位置付け取り組んでいる。赤木名っ子タイムや運動会などの他にも，普段から八月踊り唄に触れてもらうために，朝のボランティアや清掃時間には，校内放送で，保存会の方々が歌う八月踊り唄を流している。この放送は，校庭にも流しているため，地域（校区）の方からも「朝から元気が出る」など好評を得ている。この他にも八月踊りやシマクチなどの掲示物を充実させ，ふるさとの文化を意識できるようにしている。

もう一つは，保存会や地域の方々との連携である。日頃から管理職を中心に地域行事に参加したり，八月踊り保存会に入会し練習したりし，学校の願いを伝え，保存会や地域の方の思いを承わるようにし，連携を密にしながら，伝承活動に取り組んでいる。

7　取組の様子（練習状況，発表の場等）

唄の練習
歌詞をみながら

踊りの練習
唄やツィヴィンのリズムに合わせて

8　参加児童・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【４年生児童】

私は，初めてだったので最初はなかなか覚えられなかったけど，何度か練習するうちに，口ずさみながら歌えるようになりました。踊りは，前のお友達の真似をしながら踊って，とても楽しかったです。もっと練習して上手に踊れるようになりたいです。

【教職員】

毎年，保存会の方々が，熱心に指導をしてくださるのでありがたい。

【保存会から】

子どもたちに，少しでも歌詞の意味を理解してもらい，八月踊りが好きになっていただけたらと思います。

【地域の方から】

赤木名八月踊りは，奄美の宝，地域の宝だから，いつまでも残してほしい。